

ふちせ栄子さんの歩んだ道

ふちせ栄子さんは、1956年(昭和31年)に北九州市小倉で、3人姉妹の長女として生まれました。父親は、八幡製鉄所(現在の新日鉄)に勤め、両親とも大変かわいがって育ててくれました。

人見知りをする内気な子どもでしたが、近所の友だち十数人といつも遊んでいました。

中学校は、生徒数1800人のマンモス校。人前に出るのが苦手でしたが、友だちから「副会長に立候補するので、あなたに補佐役をしてもらいたい」と頼まれ、生徒会役員選挙に立候補して、当選しました。

ブラスバンド部で 甲子園へ応援に

中学・高校の6年間は、ブラスバンド部でサックスやクラリネットを吹いていました。小倉南高校1年生の時、野球部が甲子園に出場。必死に応援したものの、対戦相手は江川卓(その後巨人軍に入団)投手の作新学園で、8対0で負けました。

中学校生徒会の会議(右から2人目)



人の役に立つ生き方をしたいと、 日本共産党に

福岡県立短期大学社会福祉科を卒業した後、大牟田市でハンディのある子どもたちが暮らす学園に、住み込みの保育士として2年間働きました。

その後、北九州第一法律事務所に勤めるようになって、社会と政治の関係がわかるようになってきました。



短大時代の学友と。前列左。

ある日、赤ん坊を抱いた母親が、タクシートの運転士につきそわれて事務所にやって来ました。ふちせさんが事情を聞きました。すると、「死に場所をさがしてタクシーに乗った」ことが、わかりました。

ていねいに話を聞いた弁護士が、アドバイスして女性の命が救われました。そしてどうしても相談料を払うという、その女性から、百円だけもらったのです。

このように、サラ金や公害などに苦しんでいる人たちのために、献身的に働く共産党員の弁護士や事務所の人たちの姿は、ふちせさんのめざす生き方とぴったり重なり合いました。そして迷うことなく、日本共産党に入党しました。

入党してまもなく、共産党事務所に勤務していた幸^{みゆき}さんと知り合い、結婚しました。

結婚後も仕事を続けていましたが、長女が1歳のとき、1984年に夫の故郷の大瀬戸町に転居しました。夫は父の瀬渡し業を継ぎ、ふちせさんは役場の臨時職員をしながら、3人の子育てに追われています。

反戦平和の党の一員として決意

91年のいつせい地方選挙を前に、立候補の要請がありました。

ふちせさんの心は揺れ動きました。娘や親たちの負担にならないだろうか、客相手の夫の仕事がなくなるのではないか…。悩みに悩みました。

そんな彼女を奮い立たせたのが、91年の湾岸戦争でした。憲法9条違反の戦争協力や自衛隊の海外派兵を絶対に許すわけにはいかない。反戦平和の党の一員なら、ここががんばりどころだ。町民の暮らしと平和を守るために、娘たちの未来のためにも、誇りをもち胸をはって日本共産党の旗を掲げようと大瀬戸町議選挙への立候補を決意しました。

家族が支えてくれた議員活動

「せっかく大瀬戸に来てくれたのに、苦勞をするだけ」と、最初は反対した義父母。しかし、栄子さんの活動をみて、良き理解者となり、子どもたちのめんどうを見るなど助けてくれました。



また、二度目の選挙の時、3人の娘たちが、タスキをかけ万歳しているふちせさんの姿を描き、「ひっしように！おかあさんファイト」と添えた画用紙を渡してくれました。子どもたちと夫の支えがあつてこそ、地方議員としてがんばることができたのです。

